

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【太田小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語においては文章の構成、算数においては四則演算、グラフの読み取りなど他教科にも関わる学習内容に課題がある。 <指導上の課題> これらの領域の学習内容を身に付けるための学力向上タイム等の活用	⇒ 学習の様子によっては、前学年の内容を振り返ることも視野に入れるなどの学習活動の工夫をする。学習が苦手な児童の学習が定着できるような支援、声かけを通年を通して取り組む。基礎学力向上タイムを効果的に進めるよう内容、学習形態の計画をする。【月に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 何のためにこの勉強をするのかという学習めあてを意識した振り返りを適切に行う。 <指導上の課題> 学習者が常に学習のめあてを念頭におきながら学ぶことができるような授業を進めるための授業研究	⇒ 思考が単純なもので留まらないよう、学習中にもめあてに振り返るような声かけをすることで思考を深める経験を学習の中で積ませる。また、それらを踏まえた振り返りの時間を設ける。【毎時間3分程度実施】 市教委の研修における教職員研修の活用【7月下旬】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、読み取った情報を活用することに課題が見られた。読み取った情報の活用は、他教科でも必要な能力となるので、教科横断的な指導が一層求められる。漢字や言葉に関するもの、主語述語にも課題が残るので、朝読書等を活用し、活字にも親しませていきたい。算数に関しては、基本的な四則演算は定着が必要である。特に、小数、分数については数のしくみをよく理解させたうえで、計算に挑戦できるようにしていくことで、考えの表現も進むのではないかと。また、既習の学習内容をどのように生活で活用していくのかを身に付けさせるために、日常生活に即した問題場面を考えたり、日常生活で実際に学習内容を活用させる活動が必要である。
思考・判断・表現	国語では、書くこと、読むことに大きな課題が残る。問題形式を見ると、記述式は県・全国平均と比べると、特に課題があるように見受けられる。自分の考えを書く、友達のことを知る、自分の考えを見直すなどの活動を意識的に取り入れると効果があるかもしれない。記述式の問題に対して、平均より無解答率が高かった。まずは書いてみる指導を継続したい。算数も同様である。記述式の問題は、国語に比べても無解答率が高かった。短答式の問題であっても、無解答率が高かったことで、まずは自分の考えを書いてみるという姿勢を指導継続していきたい。また、ノート等への表現のしかたを身に付ける必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	学力向上タイムに関しては、各学年、児童の実態に即し、実施できている。 2学期以降も継続して実施する。
思考・判断・表現	B	振り返りの活用は、授業の学習内容にもよるが、継続的に進めている。 夏季休業中に、学校の実態に即した教職員研修を実施した。 2学期以降も継続して実施する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)